

## (仮称) 渡邊辰五郎記念館事業地元説明会 概要

開催日時 平成30年7月29日(日) 13時30分から15時00分  
場 所 長南町中央公民会講堂  
出席者 町民の方：24名  
町執行部：平野町長、小高教育長  
企画政策課長、生涯学習課長、生涯学習課補佐

### 内 容

#### 《 説明概要 》 生涯学習課 課長補佐

- ・ 渡邊辰五郎記念館基本計画は、およそA4 100頁程の冊子にまとめており、すでに町のホームページに公開しています。基本計画の要旨をわかりやすく簡潔したものであり、先日6月に行われました説明会同様、この概要版を本日の資料とさせていただきます。
- ・ この事業は、国が進める地方創生事業として実施しており、その申請にあたり拠点となる施設の名称を設定する必要があったため、(仮称)としてこの名称が付けられています。
- ・ 本事業は、町と東京家政大学の協働という要素が核となりますので、本町出身であり同大学の創立者である渡邊辰五郎の名を冠することには大きな意味がありました。が、建物の名称を「記念館」としたことで、従来からある「偉人・著名人を顕彰する記念館」としてのイメージが付いてしまったところも否定できません。しかし、本施設は当初から「いわゆる偉人記念館」とは一線を画すもの、ということで計画をしており、然るべき時期に性格をよく表した名称に改めることを予定しています。
- ・ 記念館整備の目的ですが、すでに町で策定した『長南町都市計画マスタープラン』にもあるように、町では「長南地区の既存市街地を、今後とも町の核として位置付け、町民が集まる場として賑わいを取り戻す。」ということです。そこから、町の中心部である長南の既存市街地区、かつて「長南宿」と呼ばれたところですが、ここに拠点を設けてのまちづくり活動が必要と考えました。
- ・ また、近年はさまざまな大学が、地方の活性化に積極的に関わっています。そこで、日本の近代教育史に功績があった偉人であり、東京家政大学の創立者である渡邊辰五郎出生地跡が、このエリアの真中にあったことから、「ここに拠点施設を設けて東京家政大学とも連携したまちづくりを行おう。」ということで計画しました。
- ・ 基本計画の策定にあたっては、幅広い分野の方々に参画いただき「検討委員会」を設置して会議を開催し、また、アンケート調査、町民有志の方々・検討委員会委員による「ワークショップ」(体験型勉強会)を開催するなど、町民の皆さんの意見把握も行っています。また、平成28年度の基本構想策定のときでしたが、地域住民の方と東京家政大学教授・学生が協働で現地調査し、イメージマップを作成する、というようなワークショップも行いました。

- 基本理念に「渡邊辰五郎の創造性を規範として、家政大学と連携した地域活性化の拠点とする。」とあります。明治初期に長南小学校の裁縫教員になった辰五郎は、自らの創意工夫を重ね、画期的な裁縫学習法を創り上げていきますが、新しい時代の中で女性の自立が求められていることに気付き、「これから自分は何をすべきなのか。」というように、考え方や行動を大きく発展させていきます。そうした時代を切り開く原動力、これこそが渡邊辰五郎の「創造性」であると捉え、現代に生きる私たちもその「創造性」を規範として、自分たちの創意工夫で厳しい時代を切り開いて「まちづくり」をしよう、という意味がここに込められています。
- 記念館の役割として、ミュージアム、まちづくりセンター、交流と憩いの場としていますが、本来ミュージアムとは、ただ単に展示物を並べて、それを見に来る人がいるということだけではなく、地域の人たちが調査・研究・展示などの活動に積極的に参加することが望ましいとされています。そうした活動に参加する中で、地域の魅力や逆に地域の課題などに気付き、それが「まちづくり」の活動につながり、その成果として展示やイベント開催など、各種の活動があるということが重要です。そして、そこに参加することによって地域の住民同士、地域外から訪れる人々との間に交流が生まれ、この場所が「交流と憩いの場」となる、という「サイクル」を想定し、このような役割としてまとめています。
- 主な活動・利用イメージとして、いくつか例示していますが、これらをそれぞれ実施するにあたっては、地域住民の参画による住民サポーター、あるいは学生を加えた有志グループによる「まちづくり活動」があって、そのベースの上にこのような事業が実施されることを想定しています。
- 東京家政大学の専門性を活かした講座では同大学と連携し、講師陣による有料の「出前公開講座」の開設を予定しています。埼玉県狭山市にある東京家政大学地域連携推進センターで公開講座を実施していますが、同様のイメージで同大学との連携のもとに、この場所でも実施したいということです。また、保育や介護などの専門職の資格を持ちながら、現在は職場を離れている方を対象とした「再チャレンジ支援講座」というものが同センターで行われており、これは地域の就労支援の問題解決にもなることですので、ぜひこの施設でも実施をしたいと、特に計画しているものです。
- 管理・運営を担う組織を中心としたイメージでは、中心に「運営組織」というものがあり、本施設の管理・運営の中核を担う組織として、今後立ち上げていく予定です。組織の参加メンバーは、現時点では町や東京家政大学関係者、地域の方々、商工会、金融機関などの参加を想定しています。また、運営組織については法人化ということも想定しています。
- 運営に必要な財源は、専門講座、エコツアーや展覧会などの収益、レストランのテナント料、イベント参加料、これに町からの管理料を加えて運営していくことを考えていますが、いずれは町の支援なしに自立した運営を行っていくことが望ましいので、活動を軌道に乗せつつ事業の拡大を図り、段階的に自主財源の比率を高めていくことが必要と考えています。
- 予定地は仲宿にある長南町指定史跡「渡邊辰五郎出生地跡」です。現在は空地にな

っています。

- ・ 今年度は29年度に策定した「基本計画」の内容を踏まえ、施設の基本設計に着手するとともに、運営組織立上げに向けた詳細な検討を行っていきたいと考えています。
- ・ 本町は、東京家政大学と連携包括協定を結んでおり、同大学の専門性、町の自然環境、圏央道の整備効果などを活用しながら、経済・文化・観光レクリエーションなど、多方面に及ぶ、ひと・もの・情報の多様な交流機会を創り出し町の活性化を図り、地方創生の実現を目指しています。その中で本施設には、同大学の専門性と地域のまちづくりをコーディネート、調整する役割を担うということを期待しています。
- ・ 賑わいを取り戻すことは簡単ではありませんが、本施設を拠点として、地域住民自らが地域資源を掘り起し発信する、そうした活動が新たなコミュニティを創り出し、それが賑わいを取り戻すための一助となることが、本事業の目指すところです。

## 《 質疑・意見等 》

(質問者1)

体制イメージ図の中央に運営組織とありますが、どのような意味か、リーダーシップを執れる人がここに座るということで見ていいのか。また、コーディネーターに東京家政大学とありますが、組織をまとめるのは家政大学が中心となって行うということで理解してよろしいでしょうか。

(生涯学習課 課長補佐)

組織としてリーダーシップを以って運営をするということです。

コーディネーターは運営組織のことを指しています。例えば地元の活動において、専門的なアドバイス、専門家の参画が必要であり、東京家政大学の力を借りたいという時に、この組織がコーディネーター（取りまとめ役）として同大学と調整するということです。

(質問者1)

コーディネーターという意味は分かりましたが、この体制イメージで見えますと運営の仕方が良くわからないです。協議会方式に見えてしまい、協議会方式でいいのかな、上手くまとまらないのではないかなと、他の町村を見てみるとそういう気がしてなりません。

(生涯学習課 課長補佐)

この枠組みは、国の地方創生が「官民協働」という概念を強く打ち出しているもので、それに基づいています。ただし、関係する団体から機械的に人材を出して組織を編成するという方法は、誰がリーダーシップを執っているか分からないという状況も懸念されます。今後、運営組織を立ち上げる中でそうした弊害をなくすような方向で、いろいろ考えていかなければならないことだとは思っています。

(質問者2)

私は結構いろいろなところで皆さんと(特に女性の方と)お話するのですが、「出来る? 誰この人?」というところから始まって、「え、こんなものが出来るんだ長南に。」と、今冊子を見たらカラーの冊子がとてもきれいで、これだけ人が集まっていたら成功するのもかもしれませんけれども、今、長南町には本当に人がいないような気がするので、私は反対です。だけど賛成する人の意見を聞きたいと、今日は来ました。

もう一つ、西小学校(マイナビ)が、宿泊とか喫茶店とかやってらっしゃると思いますが、その様子もお聞きして、その成功の確率性を見て長南にそのような事を始めるのであればいいのかな、と思って。そして、いろんな物を美術品とか写真とかを展示すると説明されていましたが、それは公民館で今までもしており、図書室に来る、役場に来る、そのついでに見ていこうかな、と思うのですが、場所的に長南の街なかでは西や東の人が面倒くさがるのではないかと思います。とりあえず賛成の方の意見を教えてください。

(企画政策課長)

西小のマイナビさんの状況ですが、広報ちょうなん等で7月1日にグランドオープンと、ご周知差し上げたところです。総合情報雑誌リクルートマイナビと言えば誰しもが知る大手企業であり、各業界広く知れわたっているそのネームバリュー、それと、西小にはそこに企業あるいは学生を中心とした団体の宿泊客を目標として、業務活動を行っているということで、西地区の人達に聞くと大型バスが土日には結構駐車しており、当初は述べ3000泊であったが、もう5000泊以上の予約をいただいております、会社側も順調な滑り出しに驚いていると伺っています。尚且つ団体の宿泊客だけでなく、カフェテリアにもお客さんがだいぶ来ているということで、味も良く、口伝えで色々な方々に伝搬していくということが、町としても非常に効果があるものと、期待しているところです。

そういった中で、対岸の東京、川崎、横浜からも来ており、先日は柏の方からも大学・高校のキャンプで来ているということで、今後もますます期待し、辰五郎記念館の交流人口、外部からの流入人口、そういったことも相乗的に掛け合わせることによつての相乗効果も期待しているところです。

(生涯学習課 課長補佐)

公民館、資料館でもいろいろ展示はしています。しかし、この計画の目的は、長南の街なかに賑わいを取り戻すということです。街なかに今までは何もなかったが、そこに拠点を作り、そこで何かの活動が生まれて何かの企画をやることによつて、そこに参画する人、見に来る人たちが関わるいろいろなコミュニティが生まれます。そうしたことが呼び水になって波紋を広げて、賑わいを取り戻すというきっかけになれば、ということなので、あえてあの場所に計画をしています。

(質問者3)

東小学校、西小学校を貸していますが、その収益というものが町にどのくらい入るの

でしょうか。

(企画政策課長)

維持管理経費ですが、全く何もしないで4小学校の跡地をそのままにしてしまうと経年劣化してしまいます。町長の決断によりスピーディな行動をとり、文部科学省の廃校プロジェクト等とも働きをかける中で活動し、昨年7月1日に旧東小に東京のOA機器を中心とした㈱クラフティ、この7月には西小にマイナビさんと、順調に推移してきました。

基本的には無償という形で有償貸付ではありませんが、管理維持経費はそのままにしていれば400万円程度かかります。それがそのまま企業が有効に利用していただけるというような形であり、企業の収益があるから有償で貸し付けるものではありません。

無償の貸付で5年契約になっておりますが、先々順調にすごい利益を上げるようであれば、次の更新時にはいくらか支払ってもらえるようなことも発生するかもしれないが、とりあえず5年間は無償で貸し付け、という形で行っています。

(質問者3)

タダで貸すことは考えられない。電気代とかガス代とか水道代それも無償なのですか。

(生涯学習課長)

東小学校に西小学校についての電気光熱水費については、入った企業が払っております。通常、そのままの状態であれば町で負担しなければならないが、企業が入れば家賃としては貰わないけれども、維持管理に係る費用は、当然借りた企業が払っているということで、建物と土地だけが無償ということなのです。

(質問者4)

運営組織は法人化という話で間違いないでしょうか。そうすると、法人化したところと町当局との関わり合いは、どのように考えておりますか。

(生涯学習課 課長補佐)

まだ必ずしも、ということではありませんが、検討会議の中で、検討委員の一人である東京家政大学教授から「組織が法人化している方が対外的な信用度も高いと言えるので、東京家政大学としても色々とアプローチもしやすいと思う。」という意見がありました。法人化という手順を踏むことで組織の形態、決まりごとをしっかりと決めて、責任をもって運営管理してもらおうということはメリットの一つです。また、町としては運営を任すこととなりますが、基本理念を外れないように舵を取る、というスタンスで考えております。

(質問者4)

その組織のあり方は、町である程度方針を決めていくという考えでよろしいですか。それとも、その法人に全くお任せしてしまうのですか。

(町長)

法人化ということで計画の中では示していますが、私としては法人化をするか、しないかというのは、はっきり決断しておりません。検討委員会に東京家政大学の教授が入っています。当然、同大学は長南町の学祖である辰五郎さんの生誕地、これを非常に大事にしている訳です。大学の方としては立派な記念館を作りたいという想いは強いです。内容も充実させたいということもあるので、おそらくこういう法人化という話もしていますが、現実的な問題としては、町として法人化をすべきかどうかということについては、これからしっかり議論していきたいと思っています。

(質問者4) 記念館を建てた場合の東京家政大学との具体的な連携についてお伺いしたいです。

(生涯学習課 課長補佐)

まず概要版にもあるように、専門講座を開講した場合の講師の派遣ということになります。その他、何かの企画で「こういうまちづくりをしたい、こういうことをやりたい。」といった時に、専門的な人に参画してほしい場合、家政大学は非常に多くの専門分野を持っていますから、そういう専門分野を持った人に対して活動に参画してもらおう。そのような色々な立場で先生でも、学生でもこの活動に関わっていただきたい。そういうところでの同大学と連携ということですよ。

(質問者4)

それを継続的にやっていく、例えば同じことを何回もやっていくと飽きてくると思うのですが、その辺の変わっていく企画をどのようにこれから捉えていくのか、それは作ってみないと分からないのでは困るので、今、こんな風に考えている、というものがもしあるなら、おっしゃっていただきたいです。

(生涯学習課 課長補佐)

例えば、先ほどの地域連携推進センターでは、実にたくさんのプログラムを毎年行っている訳です。そういうところからピックアップして、これはこちらでやっても非常に良いのではないかというものを選んで、調整して、毎年常に新しいものを供給していくような形にはしたいと思っています。

(質問者5)

この辰五郎記念館を踏み切った理由の一つとしては充分納得出来る。「町の魅力を高め、人の流れ、活性化。」これが目的だと思いますが、これは長南町だけではなく、全国どこの市町村でもこういうことを行政が目指していると思うのです。その中で、今回長南町がこの記念館を踏み切った。私は大変疑問というか心配。私以外にもそういう方がいっぱいいると思うのですが、これはもう進んでいる訳です。したがって今さらではな

いが、これを踏み切った理由をまず教えてもらいたい。

(町長)

これについてはいろんなところで話していますが、私は豊栄地区だが長南小学校を出ていますので、長南の街なかは、昔遊びまわったところなのです。私が記憶しているのは、その当時は人の動きもあってすごく活気もありました。その後、学校を卒業して一旦勤め先も町から離れ、街なかをよく見る機会もなかったけれど、定年退職し街なかを見たときに、すごく衰退が著しいということで、「何とか、かつての活気を取り戻したい。」という思いで、4年前手を挙げさせていただきました。

長南地区、豊栄地区、東地区、西地区とあるが、今は合併して60数年ですから、地域として物事を考えていくことも必要なのですが、それぞれの地域にそれぞれ拠点があってもいいのではないかと考えています。そういった中で、長南の街なかに何があるかという、何もないのです。ですので、こういった衰退の一途をたどっているのも仕方ない。そんな中で人の流れを創るための拠点となる施設があれば、少しは変わってくるのではないかと考えた次第です。

この拠点となる施設、これは結果として地方創生事業に絡めたということで、辰五郎記念館事業という名称になっていますが、私は記念館を造って内外から人を呼び込もうとは全然思っていません。あくまでも、何とか街なかを元気にしたいと、そういう思いで施設を作れば、どういう目的で造ったとしても、その施設を地元の皆さんが有効に活用すれば、それで街なかが自然に活気づいてくるのではないかと、そのような思いもしました。

辰五郎記念館事業という形の中で、辰五郎さんの生誕地がその場所にあったということで、今、東京家政大学と盛んに交流しています。この記念館事業が始まってから更に友好関係が深まってきています。東京家政大学は営業部門とか幼児教育の部門とかいろんな部門があるので、いろんな分野でこれから町民の交流も図れるのではないかと、という思いでこのように至ったということです。

(質問者5)

先ほどの方の「賛成の方はいるのですか。」というように、賛成の方はいるのでしょうけど、反対というか疑問な方は私を含めていっぱいいると思う。なぜ疑問か。俗にいう箱物、その類の物、私個人としては変な物を作るのではないし、「記念館」これは結構なことだと思います。ただし、箱物、(採算)ペイできるのか。活性化は分かりますけども、それをどこで担保とするのか。ここに概要版で、「想定している」とか「期待している」とか「目指している」とか、間違いではないと思うのですが、もう既にかなりのお金が段階的に掛かっていると聞いております。建設には金が掛かるけど、それ以前に、今現在、もう少し私達に「活性化が具現化できるんだな。」ということが、この資料見て、もうちょっと感じ取れば良いと私は思うのですが、それが感じ取れない。町長がおっしゃったように、「町をもうちょっと何とかしなくてはいけない。」という思いは、皆共通だと思うし、決しておかしい方法とは私個人としては思っておりません。

だけど今言った、博打ではありませんけど、ウン年後のことは誰も分からないけど、全国どこでもと云っていいように箱物がずっこけている。これが長南町で、この前までは（人口が）1万ウン千人が、いつのことであったか今は8千人、これからこういうものを建設して、間もなく5千人、4千人、これは仕方ないのですよ。そんな中で活性化というものが実現出来るのか。出来たら次に平野記念館が建ちますよ。私は町全体の説明会の時、出来なかった時のその責任はどうしてくれるのかと、それを疑問と思われている方は感じて、採算の収入引く支出だけの問題ではないと思いますが、「その辺がちょっとどうなのですか。」とっております。本当に具現化が出来るのかどうかを、もう少し踏み込んだところでご説明していただくべきではないのでしょうか。既にウン千万円の金が掛かっている。こういうふうに対処ではなくて疑問を抱いているにも関わらず、こういう事業がどんどん進んでいく、我々が何を言っても行政とは議会が通れば通ってしまうのです。そこにも大きな疑問が、私個人としても、巷にはそういう意見が多ございますけども、この具現化にもうちょっと説明を、「活性化はこういうこと。」と、もう少し踏み込んで説明いただければ、この中の3分の1でも半分の方でも、嫌でもうなずいてくれるのでないですか。そこまでの説明をすべきだと、私は思います。

（町長）

基本的には私も箱物は作らない主義です。でも、箱物を作らないだけで済まされるかどうかということなのです。今、町の借金も非常に大きいです。ですので、今、向こう10ヶ年の財政計画を作らせています。それを見て財政健全化に踏み切るかどうか、というそういう決断をしています。ですが、その一方で、20年後には人口が半分になります。このままいくと将来消滅するであろう市町村の上位にランクされていきます。これだけは避けていかなければいけないと、これから次世代を担う人たちもいる訳ですから、長南町を何とか元気にしていかなければいけないと、いう想いでいます。ですので、町を活性化するための施策、と一方で財政を縮小していく財政健全化、これを同時に今やらなければならない、という非常に難しい時期に来ています。「財政健全化を進めるから長南の街なかはこのまま衰退していてもやむを得ない。」という考え方もあります。ですから今日、皆さんからいろんな意見を聞いた中で、もし皆さんが「もうお金を使わないでじっと自然の状態に任せてほしい。」、「人が減って賑わなくても仕方ない。」と言ってくれたら、私はそれが一番楽かもしれません。

でも、やはり行政としては何とか町を盛り上げていく。いろんな町村が今、競争です。競争に勝つ、負けるという訳ではないけれども、やはり行政として町民の皆さんに提案することは提案して、理解いただければそれで施策を実行していく。それが、今、大事なところかなと思っています。もうすでに大金をかけているのではないかとおっしゃっていますが、この大金は、もし辰五郎記念館がダメになったとしても、東京家政大学との交流はしっかりしてきている訳です。拡大してきていますし、また違った面で、例えば公民館の建替えの時にこういう機能を少し持たせてもいい訳だし、いろんな意味で今までの使った費用が無駄になることはない訳でありますので、そういったこと考えながら、計画行政というのは計画に対してはかなりお金をかけるけども、実際それが行われ

るかどうかというのは、また別な話なので、そういったことで行政としてはいろんな計画をして企画をして、町民の皆さんに提案して、それで判断してもらおうということです。先ほど反対という人がおりましたが、反対は反対、それでいいのです。それで話を聞いてやめればいい訳ですから。ただし、今までやってきたことが無駄になるということでは考えていませんので、そういったことでご理解いただきたいと思います。

(意見者1)

意見の中に、皆さん賛成だの反対だの言っていますが、今回の概要書に本来の基本計画の100頁位のものが有るはずなのです。それは、ホームページに載っているということなんですけど、皆さん見ましたか。(場内から「見ていません」という声あり。)見えていますか、見ていないと思うのですよ。それをぜひ、役場の方々、申し訳ないのですが公開していただきたい、それを読んでいただいたら解ってくるのかな、という感じがします。

(意見者2)

いろいろな意見をお聞きしているのですが、地元としてはぜひやってほしい。地元の住民として申し上げます。基本計画のホームページは、パソコンでは読みづらいので印刷して読みました。100頁位あるので全部は読み切れません。それで、私の感じとしては、今65歳以上の高齢者の割合が4割近くいるのではないですか。それを対象にした計画、内容がほとんど盛られていません。私としては、町の人を使いやすい、皆さんが集まってそこで何かできる。それが、出発になるのではないかと考えています。私も仲間とよく話をしますが、(町に)「集まる場所がないんじゃないか。」というのですね。ですから、渡邊辰五郎記念館という名称が、修正もあると言われてはいますが、この名前だと硬い感じになってしまって、我々が簡単に遊びに行っても何かできるというものに感じ取れないので、是非ともそれは直して欲しい。それと歳取った人が集まって何か出来る、というところ入れて欲しい。

西小(マイナビ)の中に図書館が出来る、そこに皆さんから本を集めてそれを使用している。皆さんもたくさん本を持っていると思うし、たくさん捨てていると思う。私もだいぶ捨てている。ですから、そういう本を持ち寄ってそれを見る。町の図書室はあまりにもお粗末で、中々入っていく気にならないのですが、こういうところにそういうものを作って、自分たちが持ってきた本だからということで、状況でそれを話し合う、というようなところも必要ではないか、そういうことで町民が利用するのに非常に便利なものを作っていただきたい。出来るだけ金を掛けなくて、カフェが出来るとか料理とかありますが、計画を早く具現化して、今日は地元に対する説明会ですから、もっと具体化したものを説明していただくと地元としてわかりやすいかな、こういうものをやるんだとか、出していただければ、私としてはぜひ欲しい、出来るだけ早くやってほしい、ホームページを立ち上げてから相当経っている、なるべく早く、少なくとも私が生きていく間に作ってほしい。

昔は私の家が店をやっていたものですから、そこに集まった人たちが、今集まると「買

い物によく来ていたんだ。」という話をよく聞きます。そういうところって今ないですよ。ですから、そういうものにしてほしいですね。硬いものではなくて、イメージはいつでも良いが、内容がそのようになるように具現化していただければなって、その中にカフェなどがあって町民の人が集まれる物を作って欲しい。記念館ということで絵画を飾ったり、ということになると、つつい敬遠しがちになるので、記念館という名称はよい名称ではないな。渡邊辰五郎が云々とかではなくて、内容としてそうではないようをお願いしたいと思っています。

(質問者6)

再三私的に町長にも伺ったのですが、辰五郎記念館という名称が全面的に出ていますから、ボタンのかけ違いではないですけれど、これがまず、みんな疑問に思っている。それで町おこしが出来るのかって。今、「意見者2」の方も言いましたけど、町おこしのためにミュージアム、大いに賛成です。今日は、賛成反対ではなくて疑問に思ったことの質問ですから、私も賛成反対はともかくとして、疑問に思ったことは、「辰五郎記念館」は何坪の建物が出来て、それで概算でどの位の予算が掛かるのか、もうそろそろ出てもいいのではないかなと、これだけの図面が出来ているのですから。前に町長に聞いたときに「良く精査して完璧なものになってから説明します。」ということでしたから、建物が何十坪何百坪とか、概算いくら位掛かってとか、そろそろ大雑把でも結構ですから、もしこの場で説明できるのであればお願いしたいと思います。

(町長)

なかなかこの説明会を開けなかったという大きな要因の一つに、今言った事業規模、事業内容そして運営方針、そういった事業の骨格なるものが示せなかった、煮詰められなかったということがあります。本来ならまだ説明会を開く段階ではないのですね。そういったものが決まっていなかったから。ですけど、そろそろ今年度の基本設計の策定業務を行うに当たって、ここにいたっては説明した方がいいだろうということで、今、現在の状況の中で説明をさせていただいています。なんでこの事業費が決まらないかというところ、さっきも言っていますように、私は長南町の財政を非常に心配しています。この箱物を作った場合にどの位の特定財産を持ってきて、どの位の一般財源を当てたらいいか、というところはまだはっきりしていません。要するに将来の財政負担を出来るだけ少なくしていかなければいけないというのが念頭にあります。ですので、この財政状況を今一度精査していますので、それを見ながら最終的にこの事業にどのくらいの公費を当てたらいいか、というところをこれから出していきます。出しますと当然、建物の規模も決まってくるし内容も決まってくる。そういう事で、今しばらくお待ちいただければと思っています。以上です。

(質問者6)

ありがとうございました。今日は長南2区3区の人の説明会ということですけど、たまたま今日午前中に、区長経験者の集まりがありました。「町全体で一回説明会を(6

月) 3日にやっているのもそれでいい、ということではなくて、まだこれで説明会は終わりじゃない。」ということ、私たちの仲間に伝えます。東、西、豊栄でも聞きたいということで、そのことについて聞いてくださいとのことでした。たまたま運動会で出られなかったということがあったので、「出来れば町全体でのことについて、もう一度聞いてみてください。」とのことでしたので、今、聞きました。まだこれで説明会は終わりではないということ、その旨伝えます。町長から、これで説明会は終わりではなくて先になるかも分からないけれど完璧なもの、具体的なものを出すということで。

(町長)

一番大事なのは、建設段階に入ってどういった建物が出来るか、どの位の予算を使ってどの位の規模のものを作るかということが、具体的にになった時点でお知らせするような形になります。

(意見者3)

説明という言葉の意味ですが、この段階ではまずイメージということですから、イメージということは「一つの夢」こうしてありたいという希望観察の上に立っての考えだと思います。ですから具体的にその数字が出てこない、そこに皆さん「これでやっていけるのであろうか。」ということ、非常に心配しているのが、今、町民の考えではないかと思えます。そして前回よりは今日の町長はじめ皆さんの話が、ある程度具体化してきております。そういうことを考えたならば、2回3回で、これから何億の記念館を作ってどの位掛かるのか、要するにそれは町民の借金になっていく訳です。

現在、私なりに考えてみた時に、まず地元の人達に「こういう話が有りますよ。」ということ、話して、それから町全体の人達に話すのが筋ではなかったでしょうか。それが逆だと思えるのですよ。そう意味に考えまして、もうすでに2千万円というものが使われている訳でございます。そうしますと、一人当たりいくらになるか、8千人の人達の負担というものが一人当たり2,500円掛かっております。すなわち、今町民一人当たりの借金が94万円です。なぜ私がこんなことを申し上げるかといいますと、ただイメージだけで基本的な計画がはっきりしてない、もし町長が本当に我々の代表として町政を考えたとき、この記念館を建てて、この町に経済効果がどの位あるのかというのは、先ほどの話の流れ中では東京家政大学を中心として、というようなイメージを私は持った訳でございます。では家政大学の人たちが、本当にこの長南町の住民ではなく、ただ数字的だけではないですが、それなりの考えで調査は十分された上でのことであるのか、ということに大きな疑問を持つ訳です。

町長も立候補された時に、本当にこの町を愛して活性化ということがまず念頭にあったのではないかと思います。そして、今日のお話の中でも、それなりの考えをきちっと持っていると思えますけれども、ここで私共が、もしこの話が出来上がってしたときに、本当に一人ひとりの借金がどうなっていくのか、ということ、私を私で考える訳です。

町長も今非常に悩んでいるのではないかと思います。これが町長の今の姿ではないかと思えます。これから心配することは負債が大きくなっていくこと、でございます。イメ

ージ的な話だけで活性化なんて出来ません。もっと具体的にきちっと納得いくような方法をとっていただきたい、これが私の願いであります。すなわち限界意識ではないけれども、そういうところをしっかりと町民の皆さんに納得いくように数字的なものを申し上げて、それで運営して行っていただきたい、というのが私の考えです。会議を重ねるごとに、本当にだんだん真髓に触れてきていると思います。少しずつでありますけど、前回の話より今回の話は非常に煮詰まってきている。この会を続けていただきたい。

#### <質問等外になし>

(生涯学習課長)

「質問者2」の方から、賛成の方の意見も聞きたいということで、「意見者2」の方から賛成の意見がありました。他に賛成の方のご意見がありましたらぜひお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(質問者1)

賛成者の代表という訳ではありませんけれども、ぜひお願いしたいということで、賛成と捉えていただければありがたいと思うのですが。まず、まちづくりセンターを重点的な機能として進めていただきたい。というのは公民館の方で長南町の特産品というパンフが色刷りでありましたけれども、私、訪ねて歩きました。友達が遠くから来るので、何か町のお土産を持たそうかと思って、ぐるぐる回りましたが良くわかりませんでした。それで古代米煎餅とウコン、これは何とかかなりましたけど、最近特定の場所しか置いていないのですね。そういうこともありますし、それから、中学生が自転車通学しています。それで「パンクしたらどうするの。」と生徒に聞きましたら「分からない。」と言うのです。「頼むと出張して修理してくれるよ。」と言う人がいるのだけれども、町に住んでいても「どうしたらいいのか」ということがたくさんあります。だからぜひ情報発信センターとして、ここでいろんな知恵のある人が集まって来て情報を伝える。私、葬式の手伝いを随分やりましたので、「お金はないから納骨まで安く上げるにはどうしたいのか。」ということで相談に乗りましたけれども、5年後も健在かはわかりません。多分オリンピック終わったらヨタヨタになっちゃってどうしようもない。それで、車を運転出来なければ買い物にも行けないし、商店街は皆さんご存知のように頑張っている人は数少ないですからね。そんな中で、まず「まちづくりセンター」というものを重点的に運営していただいて、その中からいろんなアイデアが多分出てくると思います。それと、私も長く長南に住んでいるのですが、私の父も私の祖父もまちづくりによいアイデアが出ませんでした。江戸末期から住んでいるのですが、時代に乗り遅れるだけで新しい発想が出来ないし、よそに乗り遅れてしまって。街なかで今商売を頑張っている人の後継者、跡継ぎも、やっぱりいろんな人が集まって相談してどうしたらいいかと、生活していくにはどういう便利さがあるのか、お互いに知っている情報を伝達するということが大事だと思います。

東日本大震災の復興工事に、この「まちづくり」というか「復興」で早く成功したと

言われているのが、やはり 65 歳以下の人の意見を中心にして進めたということです。私のように歳とった人間のアイデアというのは当てにならないので、ぜひ I ターンの方を集めてまちづくりに活用していただきたい。私の知り合いの中にも I ターンの人があります。すごく立派な意見を持っているし、「仕事は自分で作るもの。」という人もいます。だから「こんな寂れた町に引越してきて生活していけるの。」と聞いたら「仕事は作れるんだよ。自分で知恵出して作るんだよ。」っていうような声を聞くのです。だからやはり長年、100 年 200 年田舎住んでいたら取り残される。だから、町の間がこうやろう、という気持ち起きない限りは何をやってもダメなんです。今、新しい考えが出た時に「それは難しい、あれはダメなんじゃないか。」というようなことが、町に住んでいる人たちの大半ではないかと。町会議員の選挙が来年ありますけど、頼まれて投票するというのがほとんどでしょう。議員を選んでおいて議員を信用しない。話が進んでいるのはほとんどの町会議員が賛成しているので、私はそちらの方にお任せするというので。記念館というのは仮の名前ということになっていますので、情報発信基地として成功させていただきたいと思います。

## 《 総括 》

(町長)

いろいろとご意見をいただきましてありがとうございます。いろんな質問に対して総括ということでお話をさせていただきます。

まず「質問者 1」の方から「体制の維持としての運営組織とは。」とのご質問がありました。この運営組織というものについては、これが一つの計画の案ということで、これから現実的な段階で、体制について、組織について、考えていきたいと思っています。

それから最後にお話があったようにこの記念館の基本的なところは私もまちづくりセンターと交流と憩いの場、この二つがメインだと思っています。とは云っても記念館事業ですから、国の支援を受けて作っているものですから、記念館の機能を全く無視できないということで、それは少し入れさせてもらいますけども、メインはまちづくりセンターと交流、これだと思っていますのでよろしくお願いいたします。

「質問者 2」の方から、「施設に反対」というご意見がありました。確かに渡邊辰五郎さんを知っている人は少ないと思います。私も就任するまでは知らなかった訳です。ですけども渡邊辰五郎さんというのは偉大な人です。よく調べてみると。もちろん生誕地が長南だから言う訳ではないのですが、東京家政大学の校祖としてはもちろんですが、明治時代の女子教育の先駆者の一人で偉人なのです。そういった意味で私たちは辰五郎先生を誇りに思っています。郷土の誇りと。この際ですから記念館を造る、造らないは別として、辰五郎さんという人をよく知ってもらいたいなと思っています。

おそらく今日は反対する人が多いと思っています。というのは、議会でも 3 人の議員さんが反対していますが、「ほとんどの人が反対。」、「賛成する人は 1 人も聞いたことはない。」とも聞いています。反対する人をどうしても賛成者にするための説明会ではないので、それは構わないのですが、ただ、この事業に否定的なチラシが出回っていて、皆さんもそれを見ているのではないかと思うのです。その中には、推定とか、推

測とかという表現で、数値とか言葉が出てきます。だいたいこの記念館事業に、推測だと4、5億かかると出ていたことがあったのですね。私はこの数値は一切言っておりません。ですが、実際にこのチラシを見た時に4、5億かかると思ってしまいます。そんなにかけるのだったら道路の一本も造って欲しいと。そういったことで反対する人もいます。私たちも辰五郎記念館について、数年前から広報とかネットとかいろんなところに出しているのですが、チラシはすぐ目に付きやすい。これも仕方ないのかなと思うのですが、もし、そういうチラシが影響しているのであれば、もう一回現実的なものを見ていただければありがたいなと思っています。

それから「西小学校の跡地活用の結果を見て判断していこう。」という話もありましたけど、おかげ様で盛況です。ですので、問題はこれからだと思っています。2年後3年後をみてマイナビの企画力を信じて、そして西小学校の活用だけではなくて、行政全般にわたってマイナビと「まちづくり」をする、地域を活性化するという協定も結んでおりますので、様々な分野でこれからマイナビと協働して実施していきたいと思っていますので、今しばらく状況を見ていただければと思っています。

「質問者3」の方から、東小、西小の収益はということでありましてけれども、先程話したようにあの施設、巨大な建物の維持管理というのは結構かかります。せつかく4つの小学校を1つに統合した訳で、旧校舎を町の希望に添った、地域住民の皆さんの期待に添った形に使ってもらえるかとどうかということが大きな勝負と思っていますが、なぜ賃料を無料にするのか。今、全国で廃校はたくさんあります。すべてのところはこの廃校に何とか企業に来てもらいたいということで一生懸命です。市町村間の競争が一番激しくなっている。ですから大手であればあるほどよい条件を出さないと来てくれないのです。ところが長南町は財政が厳しい訳ですから、よい条件などは出せないのです、せめて賃料を無料にして来てもらおう。その波及効果は、今のところ目に見えませんが、流動人口が増えればいろんな人が来る訳ですから、町で買い物したり観光施設に行ったり、長南町に来る人も多くなるので、「ここに将来住んでみようか。」とかいうことも考えられます。そういう期待を持てる「まちづくり」を、これからはしていかなないと沈化してしまうので、ここはもう少し長い目で見えていただければと思っています。

「質問者4」の方の法人化については、先程お話しした通りでありますので、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

「質問者5」の方については、先ほど全て答弁させていただきましたけれども、財政をしっかりと見極めながら、箱物を作るべきかどうかということの判断と、箱物にどの位の経費をかけられるかというものは、これからしっかりと検討していきたいと思っています。ですので、なかなか事業規模が出せないところがもどかしいところですけど、今しばらくお待ちいただければと思っています。それから、財政健全化と町づくり、相反する施策を同時に進行していくという心構えでいますので、よろしく願いいたします。

「意見者1」の方からの、基本計画を見ていない人が多いので、見るようにしてほしいという事については、事務方の方でしっかり対応させていただきます。

「意見者2」の方から、お年寄りの方に出るだけ使えるようにしてほしい、ということですが、先程も言ったように、まちづくりセンターと交流と憩いの場を重視して

いきますので、その中で対応できるのではないかと考えています。

それから「質問者6」の方についてもお話しさせていただきましたけれども、然るべき時に、町民の皆さんに詳しい話はしていきたいと考えています。

それから「意見者3」の方からいろいろお話がありまして、ご心配の財政、さっきも言ったように、今きちんと将来の財政計画を精査しておりますので、その内容を見極めた中でこの事業費に費やす費用については、将来負担が出来るだけ少ないように、といっても町が活性化するように、いろんな意味を込めて検討させていただきたいと考えています。

私のことを心配して、町長も大分悩んでいるのではないかと、ということをおっしゃっていただきましたけど、その通りです。ここまで話をするまでに相当悩んでいます。今も悩んでいます、このままゴーで行くか、これを中断するか。ですからさっきも言ったように、大多数が反対という意見もありますし、もし、それが本当であれば、私は一時的に中断してもいいという選択肢も持っています。だから町民の皆さんが望まない施設は作る必要はない、と個人的には思っていますので、非常に悩んでいます。今日来て皆さんの意見を聞いて、また悩みました。何回も言うようですが私は長南の財政負担を考えながら、長南町を何とか元気にしたい、そういう相反する施策を同時に一生懸命にやっていますので、ちょっと長い目で見ていただければと考えております。

総括になったどうかわかりませんが、今しばらく私なりにしっかり考えて、最終的な判断をさせていただきます。最終的な判断をさせていただきましたら、出来るだけ皆さんのご協力をいただければと考えています。そういうことで、これからも町の発展のために職員一丸となって行政運営に努めて参りたいと考えていますので、今後の皆さんの絶大なるご支援をお願い申し上げまして、御礼の挨拶とさせていただきます。

本日は、長時間にわたり本当にありがとうございました。